歴史的イメージ形成に関する景観評価手法の開発

A Study on the Evaluation of Historical Landscape

（研究期間　平成 18～19 年度）

環境研究部緑化生態研究室　室長　松江　正彦
Environment Department　Head　Masahiko MATSUE
Landscape and Ecology Division　主任研究官　福井　恒明
Senior Researcher　Tsuneaki FUKUI

Trees or plants are often introduced on streets when the streetscape is to be improved, but sometimes it spoils the historical impression of the street because of the lack of know-how to emphasize the feature of the street. In this study, the tendency of the historical impression of street by introducing plants was analyzed.

［研究目的及び経緯］

「観光立国行動計画」、景観法に基づき、我が国の歴史的景観を保全、整備し、地域の魅力向上と活性化を実現することが課題となっており、景観形成に関わる規制誘導や指針の検討に用いるための景観の定量的な評価手法が求められている。しかしこれまでの景観評価に関する研究は貨幣価値換算か評価構造分析のどちらかに偏っており、公共空間や街並みの要素（公園、樹木、建物等）の誘導基準策定に資するものはほとんどない。そのため景観整備の効果を事前に予測し、計画を検討する際の知見が求められている。また、近年の景観形成では歴史性が重視されることが多く、公共事業の実施において、周辺の歴史的建造物等の存在を踏まえた計画・設計が必要となる場合が増えている。しかしこれに資する基本的知見が共有されていない。

そこで本研究では、歴史的建造物を含む空間を対象に、沿道要素の構成・配置と公共空間の要素、特に樹木等の配置や質について、歴史的印象評価との関係を定量的に分析する。

［研究方法］

平成 18 年度は､代表的公共空間として街路を対象とし、樹木等の導入と歴史的印象の関係について、その枠組みを設定するための分析を行った。具体的には次の手順で行った。

①伝統的街路空間における緑のあり方の確認

伝統的建造物群保存地区や古写真に対する考察より、我が国の伝統的空間においては、道路敷地などの公共空間内にはほとんど緑が存在しないが、例外的に要所を印象づける単木や、到達点を印象づける並木があることを確認した。

②歴史的街路に関する分類

どのような街路に樹木を導入することが効果的なのかを論ずるため、街路の歴史的印象を規定する要素と歴史的街並みの状態に着目して街路の分類を行った。前者では武家・寺町タイプ、町家・商家タイプ、城下町タイプ、参道タイプ、到達点タイプの５類型、後者では、伝統的街並みの残る「原型型」と伝統的街並みの一部または全部が改変された「改変型」の２類型を示した。

③樹木等の導入による歴史的印象の変化に関する仮説構築

街路空間における緑の導入効果として、以下の２つの仮説を設定した。

仮説１：伝統的街並みの原型を留めている街路では、道路敷地内への緑の導入によって街路の歴史的印象に対する評価は高まることはない。

仮説２：歴史的街並みが改変されている街路では、道路敷地内への緑の導入に対する歴史的印象の評価には差がある。すなわち街路の状況に応じた適切な方法で緑を導入すれば歴史的印象を高めることができるが、方法によっては歴史的印象を損なう可能性もある。

④実験

仮説を踏まえ、歴史的街路において、道路敷地内への緑の導入が人々に評価されるのかどうか、また評価される歴史的街路や緑の条件はどのようなものかを明らかにするために評価実験を実施した。実験では、②で検討した街路分類を基に実験対象とする街路を複数選定し、それらの道路敷地内にタイプの異なるいくつかの緑を導入した静止画フォトモンタージュを作成し、被験者による評価を行った。評価は緑のない街路空間画像との相対評価とし、評価項目として歴史的印象評価と街路景観としての評価の両方を５段階評価で尋ね

た。被験者は専門家でない一般的な人々で 20～50 歳代の男女 32 名とした。

実験対象とする街路は②のうち武家・寺町タイプの原型型と改変型、町家・商家タイプの原型型と改変型、参道タイプの改変型の５タイプ 10 街路とした。導入する緑は高木、低木、草花の３種類とし、それぞれ連続的に導入した場合と要所に導入した場合の２パターンを設定した。

⑤樹木が歴史的印象に与える効果の考察と仮説検証

実験結果に基づいて、評価の傾向について考察を行い、仮説の妥当性を検証した。

［研究成果］

本研究の成果として次のような点が明らかとなった。

１．緑の導入に対する評価の全体的傾向の分析

a)歴史的印象評価の傾向

i)「連続高木」「連続低木」の導入による歴史的印象評価の変化は街路によって異なる。

ii)一般的なプランター植えの「草花」の導入は街路の歴史的印象を低める。

iii)「要所高木」「要所低木」の導入では、歴史的印象はあまり変わらない。

b)歴史的印象評価と街路景観評価との関係

i)歴史的印象評価を高める緑は、それ以上に街路景観評価を高める。

ii)歴史的印象評価が相対的に低い街路では、「連続高木」「連続低木」の導入が街路景観評価を高める。

２．仮説の検証

仮説１について、原型型の２街路 12 サンプルのうち 10 サンプルで歴史的印象評価が低下した。武家・寺町タイプへの「要所低木」導入については、改変型に対する緑導入による評価向上と比較して顕著な向上とは言い難い（+0.1）。武家・寺町タイプへの「連続低木」のみ評価が高まった（+0.3）が、これは官民境への植栽であることから、低木が民地側の要素と捉えられた可能性が高い。これらから仮説１は概ね妥当であったと考えられる。

仮説２についてはより具体的に次のような傾向が明らかとなった（下図参照）。

i)到達点に歴史的建造物が存在するが沿道の街並みの歴史的印象が弱い場合には、「連続高木」導入は歴史的印象評価を高める。

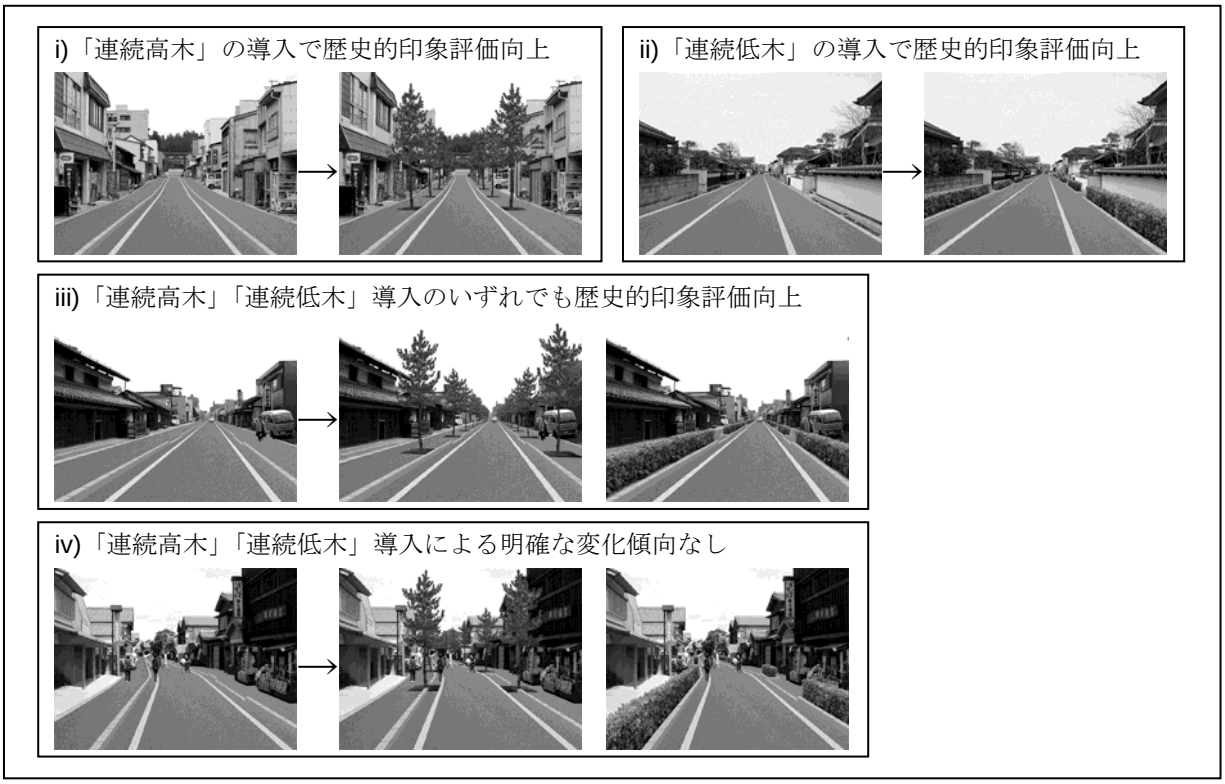
ii)武家・寺町タイプでブロック塀等が導入されている場合の「連続低木」導入は歴史的印象評価を高める。

ii)町家・商家タイプで街並みの多くが現代的な建物に改変されている場合には、「連続高木」の導入による歴史的建造物への誘目、「連続低木」の導入による街並みの統一感向上が、歴史的印象評価を高める。

iv)沿道に歴史的印象を演出する看板・のれん等の小物類や店舗の商品が多く存在する街路では、「連続高木」「連続低木」の導入による明確な変化傾向はない。

［成果の活用］

本研究の成果を踏まえ、導入樹種や配置などについて具体的な分析を行い、街路等の歴史的印象を定量的に予測する手法をとりまとめる予定である。



連続高木・連続低木の導入による歴史的印象評価の変化傾向